

資料11

指定管理者である各市町との意見交換の状況

- ・6月から8月にかけて実施した指定管理者である各市町との意見交換の概要は以下のとおりである。
- ・なお、譲渡に関してどのような立場を取るかに関わらず、いずれの市町も施設の今後の取扱についての協議には応ずる方向。

団体名	施設の譲渡等に関する現在の考え方	施設の活性化に向けた取組、その他特記事項
佐久市	<ul style="list-style-type: none"> ・市として、譲渡を受ける、受けないというところまで判断する状況に至っていない。 ・改築後10年を経過し、今後修繕が必要になる箇所が多く出てきており、対応が課題になると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率は高く、サービス業として利用者への心配りに努めている。 ・隣接地には「総合文化会館」に替えて「市民交流ひろば」を整備する予定。
飯田市	<ul style="list-style-type: none"> ・今後老朽化が進むに従って修繕箇所は増え、多額の財政負担が生ずることが予想される。 ・市は行政改革の一環として市の施設の民間への委譲や指定管理制度の導入を進めているところであり、市の施設を増やすことは現状では困難。引き続き県で運営してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の多い施設であるが、公共交通機関での来場が難しいため、駐車場が不足しがち。大きなイベントが重なる場合など無理に予約を入れないこともある。
松本市	<ul style="list-style-type: none"> ・市としては現状の役割分担を継続することが望ましいと考えている。 ・県として建て替えが困難な状況になっていることは分かるが、現在の建物が利用できる間は現状の体制を続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率の高い最大の要因は立地であり、中心市街地で代替できる施設は少ない。老朽化しているが利用料の安価なことも評価されている。
伊那市	<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革を進める観点から施設を譲渡したいという県の立場は理解するが、市も財政状況は苦しい状況である。 ・両者が納得できるような結論を導き出していくために、話し合っていければと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日夜のスポーツサークル等の利用が盛んで、毎月調整会議を開催し、利用者の要望を聞いている。
中野市	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率が低い点は改善していく必要があるが、今すぐ施設の移管を受けるのは無理であり、もう少し今のままでお願いできないかと考えている。 ・中心的な施設である大会議室は他に代替できる施設がないので、今後も必要なものと認識しており、廃止すべきものとは考えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の一部は民間からの借地であり、市がその経費を負担している。 ・大会議室が体育施設としても使える点などを活用して、利用増を図っていくことが考えられる。
上松町	<ul style="list-style-type: none"> ・施設は町の中心部の活性化に大きな役割を果たしており、閉所してしまうことはできない。町の活性化のための拠点として町が関与して存続させていきたい。 ・老朽化の影響は徐々にできており、今後必要になる大きな改修にどのように対応していくかが課題であり、その点について協議していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の利用が少なく、人口も減少する中で稼働率を上げることがなかなか難しいが、地元から要望のあった小さな改修などに応えることにより利用増を図っている。
千曲市	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー場の整備のためプールの譲渡を受けた経緯もあり、市としてもこのままでよいとは思っていないが、いつ(県有地を譲り受けるための)財政負担が可能になるのかが問題。 ・現在、市は県と白鳥園の譲渡について協議しており、こちらを優先せざるを得ない。その問題が解決し、次の段階に至ってから検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場は毎年開催される寿野球全国大会の中心的な会場。こうしたイベントの開催や、市民がスポーツ活動を行う機会を増やすことにより施設の利用増に努めていく。